

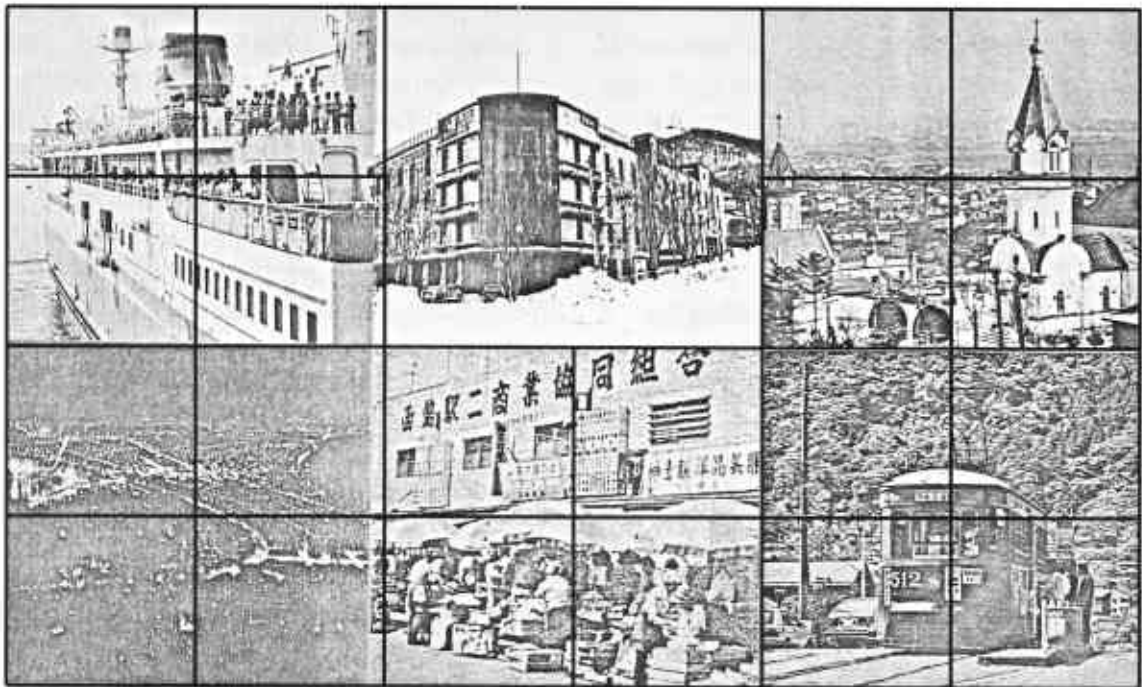
あつまろう 函館に

第35回 全道造形教育研究大会・函館大会

知恵とエネルギーをわきたたせる造形教育

昭和60年7月29日(月)～30日(火)

函館市立弥生小学校



目次	教育論議……………	2
	第11回北海道教育美術展審査メモ……………	3
	随 想……………	4

人物往来……………	6
実践校紹介……………	7
実践者紹介……………	7
ピグマスケッチペンを使って……………	8



北海道 造形教育 連盟報

発行 北海道造形教育連盟
事務局 〒062 札幌市豊平区月寒東3条10丁目
札幌市立月寒東小学校 ☎851-7924

No.71 1985. 5. 3発行



教 育 論 議

北海道造形教育連盟

事務局長 松島輝男

教育改革論議があちこちでかまびすしい昨今です。論争の中心となっているのは、やはり学制のこと、特に、中等教育のあり様と、自由化をことばを変えて、個性化ということでコースの多様な選択ができる方向に進んでいることをご承知の通りです。

肝心の、教育の中味についてはあまり話が伝わって来ません。(臨教審でもどこかの部会で話し合っているんでしょうが)勿論、教育内容にやかましくあれこれ立入って云々されるようであれば、教師の主体性も少々怪しくなるわけで、実践を踏まえての進歩であり、改革であらねばならないものと思っています。

特に、美術教育については、その点この時期に大きくカーブすることはなく、むしろ、深化・専門化する方向か、広く、浅くの方向かのバランスの問題となるうかと思えます。

当然のことながらこの問題は今に始まったことでなく、美術教育の命題であり、一つは美術そのものを教える立場、もうひとつは、美術を通しての教育観の二つの潮流がある(1965年、東京INSEAでジョン・リッチ)わけで、このどちらにウエイトを置いて立つかでその姿勢が明確になってくることでしょう。

「美術そのものを教えるという場合は、しばしば専門の美術家のように固定した一定の規範にたいして、子どもたちの美術の水準を接近させるのだ、と考える立場が多いようであるし、美術をとおしての教育論は、子どもたちの大半は専門の美術家になるわけではない、それなのに美術を教える以上は、美術を学習する過程に得られる人間性の成長能力の獲得に、より重点があるのだと考えている」(大勝・上、美術と教育)

まあ、色んな美術教育論が盛んに行われ、多くの示唆をいただけることは喜ばしいことですが、我々現場の者は、むしろ雑音に耳を藉さないくらいの姿勢で、子どもとの取組み、子どもとの密接な関わりの中から本物は何かを問い続ける仕事を通して、いくつもの論の中から、これが私の仕事に結びつく、これが裏づけになる説だなど選択する方がむしろ主体的な活動といえるんでないかなと思っています。如何なものでしょうか。

オエライ方がかく言った。すると、それがすみずみまで一様のスタイルで模放され、そして唯一無二のものと固執されてはかなわない。一斉に右ムケエミギイ左ムケヒダリノとなることは我々の世代にとってはゾットすることなんだけれど、若い人たちの中にも、これしかないんだとばかりとらわれてしまうタイプが案外多いのを見ると、日本人は変らないんだなあと、考え込んでしまいます。

美術教育に携わる人こそ融通無礙・自由豁达、しなやかでとらわれない考え方をもちたいものです。

しかし、こう考えるのは個人の立場であって、組織なり団体となれば、そこにはやはりひとつの見識や意志を持ち明確にしなければならぬわけで、研究部を中心に、研究主題設定などの吟味に十二分のエネルギーをかけていただきたいものです。昔ほどは(すぐこう出るのは申し訳ないが)侃侃諤諤の場面があまりなくおとなしくスンナリといくことが多いようです。教育論争の盛んな折りでもあります。大いなる会員各位の論争も期待したいところです。

とにかく、明治の昔、既に正岡子規が「教育の改新」という中で、「人間性とは」ということを書いているんだそうですが。

「人間性の教育は、一番に『美育、いわゆる芸術で、それから『気力、即ち精神力にある』』と云っているのだそうです。美育を一番にもってくるあたり、さすが子規というところなんだろうが、我々にとっては誠に心強いことばではありませんか。大いに自信をもって日々の実践に努めたいものであります。

昭和60年度のスタートです。連盟もいろいろな課題があろうかと思えます。

まず、函館大会の成功を大きく期待したいものです。より多くの参加が会を盛り上げることになります。地区サークルの仲間が誘い合って、ロマンの港町函館へ参集いたしましょう。

その他、例年の事業に加えて、地区交流、研修の機会など、衆智をいただきたいものと思っています。

(札幌・月寒東小校長)

第11回 北海道教育美術展審査メモ

■ 12月26日 第1日目の審査に

教育美術展も11回をむかえ、昨日までの搬入を終えて、今日から審査が始まる。昨日までの出品校、点数は、280校15862点で昨年より68校3500点も増えている。搬入点数は展覧会の水準の高さの一つの条件にもなるものであり、審査が楽しみである。

- 8時00分 会場校の校長の佐藤事業部長が早々と到着。審査会場の暖房の様子や仕事の段取りなどを見て廻り、チェックする。
- 8時30分 そろそろ審査員が集まり始める。おもいおもいに会場に行き準備をしたり、事務局室に行き歓談している。
- 9時15分 審査員が40数名となったので開会式を始める。この間白井事業部次長をはじめ事務局員と審査基準係で学年別、地域別奨励賞、入選、準入選数の算出に精を出している。始めに種市連盟委員長から年々応募数が増加しており又作品の質も向上している。これからがんばりたいという話があり、来賓の挨拶、連絡と続き開会式が終わる。
- 9時40分 全員各地区から作品を持ち寄り、入選基準について話し合う。1年生のクレヨン画と水彩画について特に意見がいろいろかわされる。
- 11時00分 審査員60名程になる。各地区に別れて、ごぞの上に座って審査が始まり1時間程になる。じっくり作品に見入る人。もう一度見直す人等、審査に対する真剣さに「御苦勞様」と声なく思う。



- 12時00分 弁当が届く。第一次審査がおわり、これからまだまだある仕事を控えての食事だが、食事を済ませて休息する先生方の審査についての語らひはつきる事がない。

- 13時00分 奨励賞候補、入選作品の第二次審査が始まり、決定順に名簿が作成されていく。
- 14時00分 佐藤事業部長の司会により奨励賞の選出に入る。1点1点作品の良い点について全員納得するまで話し合い決定されていく。
- 17時00分 審査終了。昨年と比べ第一日目の終了が遅いが真剣に審査した結果であると思う。暗くなりすっかり冷えこむ街に「じゃ、又明日」と別れていく。2階の会議室では事務局員が明日の仕事の段取りや名簿のチェックで、まだまだ仕事は続く。
- 12月27日 第二日目 作品の寸評、装丁
- 9時00分 事務局の仕事がもう始まっている。葉書や印刷の準備、名簿の付き合わせで忙しい。会場では各地区の審査責任者が昨日作成した名簿と作品の点検をしている。
- 9時30分 全員体育館に集合。作品装丁、寸評、写真や各仕事について打ち合わせを行う。作品の貼り方や段取りについてベテランの先生方の助言があり大いに助かる。
- 10時00分 審査員の手による装丁が終った奨励賞作品に辻先生はじめ顧問の先生方が寸評を書き入れていく。かたわらでは写真係が汗をかきながら写真をとる。
- 14時00分 記念画集にのせる奨励賞作品の写真撮影が始まる。事務局ではハガキのあて名書きや趣意書作成。記録の整理とてんやわんやである。
- 17時00分 15,862点もの絵の審査全て終了。外は厳しい寒さ。斜めに風が横切る。顧問の先生方、常任委員の先生方、ご苦勞様でした。
来年1月10日から始まる第11回教育美術展の盛況を願う。そしてこれからの造形連盟の益々栄える事を願う。

(札幌・山の手南小 芝木秀昭)



◆ 随想 身辺雑記

北海道造形教育連盟 伊東 将夫



早いもので私も古稀を超えました。百まで生きてみせるという劫深い私の持論ですからそう慌てるわけはありませんが、さすがに死の予感も否めません。二度目の停年で現職を去りましたので何とか自由人らしくなりました。あとはすべて自分のものといった安らぎがありますが、反面自らにつきつけるきびしい要求に耐えねばなりません。今更のように人間の生きることの果てしなさを味わわされるはめになりました。毎日自問自答のくり返しで誰も援けてはくれません。孤絶の世界の中で自分を試みるのも亦楽しです。自分のものだからです。時間的ゆとりはともすると怠惰な落ちこみもありますが、しきりに奮い立つことがあったりして、自由な猿芝居を楽しむ今日この頃です。

さてあれこれ考えてみましたが今の子供たちはどうなっているのかがやはり気になります。一昔前には考えられなかった胸のつまるような子供の問題に見る教育の姿にはとても不安になります。現場から遠ざかった私にはあれこれ考えてみても仕様のないことですが、戦前戦後の教育にたずさわったものとしては人知れず心が痛むものです。

戦後教育の混乱はひどいものでしたが、戦前の画一主義に馴らされものの辛さをいやというほど知らされました。それだけに新教育への期待も大きなものがありました。すべて手探りの研究でしたが徐々に子供そ

のものの人間形成が教育の中心命題なのだという考えに辿りついたわけですが、さてその具体的方法となると途方にくれるのがおちでした。

当時の印象深い書物にA. S. ニールの「恐るべき学校」があるが今回改めて読みかえてみてやはり新鮮な感銘をうけました。昭和二十五年初版とあるから手探り時代にくり返し示唆をうけたものでした。

ご承知とは思いますがニールはホーム・レインの流れをくむ英国の心理学者で十六年に及ぶサマーヒル、スクールの経営者として大きな足跡を残した人です。彼は子供の性は善であるという前提に立ち、異状を示す子供は学校や家庭が作り出したものであると考えて根本的な障害とは見ていない。学校や家庭が子供の成長に見合わない規制を行ったり、理解できない躰を強請することにより無意識による攻撃性を持つようになる。攻撃性の裏側に恐怖感をはらむものであるから、この恐怖を除かない限り攻撃性はおさまらないといっている。この心の障害の治療は攻撃性に与える罰ではなく恐怖心の除去しかないとしています。こういう子供自身ではどうにもならない無意識の衝動の根源に彼等が必死に飢え求めているものは愛なのだ。親や教師や仲間を愛を求めている。自分が愛されていることを感じた時恐怖は薄れ攻撃も沈静していくものである。彼は数多くの事例の中でこの現象を証明しています。もちろん誰もがたやすくできることではありません。賢明な教師の洞察のもとに子供の内面に即応した創造的な方法を必要とします。盗みをした子供に罰に替えて賞賛のことばが与えられた例があるが、盗みという攻撃的手段で人を困らせてやろうというこの子供の期待は弱まり、自分の心の秘密を解ってくれる人もいるのだという驚きと共に自分も愛されている実感味わう。この子供はこの愛を引き金に徐々に攻撃性を昇華させ平静さつまり心の安定をとり戻し自分も人を愛することの喜びを味合う平常の子供に戻っていくのです。この子供の本来性の回復が教育の基底をつくるもので、これなくして子供の望ましい成長はあり得ない。しかも、安定した基盤をつくりあげた子供たちは自己自律の大切さにめざめ、自分の欲求をもち、思慮し、努力

して自己の実現に向うもので、自律の心と行動は彼等の責任である。教師は静かに見守るのです。

ニールの教育の核心は子供たちの心の自由にあるとしています。心が拓かれるとは心の自由をとり戻すことであり、これが子供の本来の姿なのだからその障害の除去をしないで子供の生長は望み得ない。それは心の自由のないところに何も期待できないということでしょう。心の自由を得ることによって自分の権利を意識しそれを主張するが、他の権利も等しく尊重することも覚え、更に集団の秩序のため自らを規制する心も育っていく。スクールの規則は彼等の合意で作られ、これを守ることは厳しく対応していくのです。自由の心は自己自律と共に他の尊厳の理解と相互協調を大切にしていく。この中に育つものは愛の心なのです。

臨教審が教育の自由化や個性化の問題をとりあげていますが、教育の原点はいつの時代でもここに絞られてくるものです。しかし今までの論議は制度的なものであるが、この外側の問題も大切です。現在進行中の日常教育そのものの反省改善は現場人の問題であり双方相まって行くべきものなのでしょう。

ニールはサマーヒルに新たに入学してくる子供の傷は、公立学校や名門校から来たものほど大きいといっています。又教会なども加害者として言葉に衣を着せず述べています。学校の格式からくる子供に理解できない伝統や規則や躰の無意味さを言うのでしょうか。勿論学校だけでなくこれを取巻く気位高い家庭も同列であるといふ多くの事例を示しています。

最近学校の管理化が進むと聞きますが、教育は本来管理的方法になじまないものです。教育は自由の原則によって支えられなければなりません。教育は不当な支配に服することがあってはいけないと基本法は述べています。先生方の自由があって子供たちも自由の心を伸ばす筈です。

ついでにもう一つ昔の書物を紹介しましょう。米国の教育学者パーカスト女史の「ダルトンプラン」という書物ですが、初版が大正十三年となっています。これは女史による児童大学という学校の実践記録で当時欧・米の高い評価をうけたようです。我が国でも成城学園の沢柳政太郎、赤井米吉など自由主義教育の先駆者もかなり影響をうけたであろうと思われまふ。この児童大学は児童の経験を中核とした実践プランの舞台

となるわけです。実践プランの第一の原理は「自由」であり学校の画一化をさけるため授業ベルの廃止とか教室の枠を除き開放された自由への対応を試みております。学習も個人の差を生かすため興味や欲求を大切に、児童個々と教師との契約を結ぶことにより自己の責任ある行動を意識化する。第二の原理には「共働」を挙げています。集団生活の相互作用を重く考えてもいます。

今更こんな古い事を並べて気が引けますが、教育の原点は共通しているようです。あとはこれをふまえたよい方法の創出になるような気がします。年寄りの冷水とお笑ください。

伊東将夫先生を語る

伊東先生との出会いは、三笠の中央中学校時代で、昭和22年の着任当初は、先生は空知教育会に出向しており、ここからもどられた時が実際の出会いです。

先生から受けた数々の教育論や芸術論は、今も私の支えとなり誠に大きなものでありますが、ここでは、出会い当時の印象に限って述べてみます。

太い眉毛で眼光鋭く容姿に威厳を備え精氣あふれ、ひと度口を開けば理路整然と説得力をもち、何事にも動じない精かんさは恐いような頼りがいのある、居並ぶ剛の者多い中一際光る存在として深い尊敬の念を抱きました。

話しかけると、あの鋭い眼光たちまちほころび、誰をも包み込む底知れぬ温情を感じます。以来がむしゃらに自我を主張しては論され、再び立ち向っても同じ事、それでも議論してみたい、英知あふれ心の広いあったかい人です。この事は私ばかりでなく、誰もが知り体験している事でありましょう。

名は態を表わすといいますが、正に私の印象即伊東将夫で、伊東が伊藤と誤記される時イメージが壊され怒りすら感じる程に、魅せられている一人です。

札幌市立豊園小学校長 遠藤久男



多忙な今日、この頃

北海道教育大学学生部長
島山 三代喜

昭和26年に札幌分校に着任して早や34年間を経ました。同年と一緒に勤めた藤川先生は本年3月をもって停年退職となり、私が一番古参になりました。往年の戸坂、寺井両先生はすでに亡くなんともさみしいことです。札幌統合問題から20余年を経た札幌分校の移転も、本年からいよいよ校舎の建築に入り昭和62年には学部の移転、開学百年記念式展も行なわれる予定になっています。将来計画委員長として苦勞もしましたが今はうれしい気持で一杯です。ところで私は学生部長に選出されて4年になります。5分校にかかわる学寮福利厚生、課外活動施設等や、今や一番の悩みである就職問題等に取組む毎日です。講義も週一回位しかできず、自分の制作時間も思うようにとれない今日、この頃ですが、北海道教育大学5分校のために、せまりくる停年までの間、大いに頑張るつもりです。



3才児に教えられて

札幌第一幼稚園
藤塚 愛子

3才児を2年間受けもたせてもらった。初めの頃はおむつがようやくとれた感じの子供、言葉が通じない何を訴えて泣いているのかわからない。どのように保育をしてよいのかわからない、絵画を1つ取り上げてもどのように指導してよいのかわからない。わからない、わからないの不安のままひと月、ふた月と過ぎていく。

ある日、ハタノと気がついた。指導しようと思う心がいけないのだ。3才児の波にのり、共に遊び、共に学び、共に食べる、ごく当り前の初心に戻ることをいつのまにか忘れていた事に。それからは、子供と一緒に素足になり、泥んこ遊び、砂場遊び、怪獣ごっこ、(ちなみに譚名は、あいこ怪獣といただきました。)子供の心が分りかけてくると、自分自身の心もゆったりと顔付きまで違ってきたのが不思議である。

人物 往来



函館大会への参加を

函館市美術教育研究会長
鈴木 利彦

函館大会開催まで残り少なくなりました。多数の方々のご参加を期待いたし、ご案内をいたします。

函館は、皆様既にご承知のように本道文化発祥の地であり、歴史とロマンの街でもあります。私達は朝夕なに、西方にくっきり浮き出る美しい函館山の姿を目の保養にするかのように、眺め過ぎてきております。山頂から俯瞰した夜景の見事さはたとえようもなく、東洋のナポリと絶賛され、私達の誇りのひとつでもあります。

その函館山麓にあり、100年の歴史と伝統を有する市立弥生小学校を会場に、大会を開催するわけです。くしくも今年は、石川啄木生誕100年の記念すべき年でもあります。

私達は皆様の期待に応えるべく、組織をあげて準備に取り組んでおります。多くの方々の参加を得、造形教育の内容等を深めたいものです。是非ご参加を。



登り窯

北海道陶芸協会主宰
下沢 士泡

「祭り窯を知らずしてやきものを語れない」と本州の陶芸家に云われたことがある。その時はそんなものかなあと半信半疑であった。

昨年6月新得町に四室登り窯(作品・数千個は入る)が造られ、その一切を任せられた。

本州で登り窯がすたれつつある昨今、広い大地の北海道はこれから大いに挑戦すべきと想うし、そのためには多くの人達が窯にたずさわり、肌で登り窯を知ることだと考える。

新得町では老若男女を問わず大勢に参加させた。始めてマサカリを持ったと、夢中になってまき割りをする中学生位の子等、昔をなつかしみながら要領を教えるおじいちゃん、灼熱の炎をのぞきこみながら真剣にまきを投げ込む婦人達、連続四昼夜交替で焚き続けた。五日目の午前三時、空が少し明るくなりかけた頃最後の窯焼きがやっと終わった。

何時の間にかスタッフ60数人が全員集合していた。誰もなく「バンザイ」と観声があがる。朝日に向かって拍手をうつ。やり上げたときの感激はひとしおである。

作品もさることながら、これ等の営みの重要さを忘れてはならないとつくづく想う。

札幌芸術村にも登り窯が造られると云う。大いにみんなを利用してほしいものです。

実践校紹介

函館市立本通小学校

函館市立本通小学校は開校14年の新しい学校です。開校当時は学校の囲りに家がぼつぼつあるだけでしたが、今ではすっかり住宅街になっています。児童数も増え続け、2年前には南本通小学校が新設が行なわれたほどです。近くには堀に囲まれた五稜郭公園があり、写生や野外観察などによく出かけます。また校地も広く、植樹により緑豊かな恵まれた環境となっています。本校は51年に全道理科研の会場校ともなりましたが、情操教育にも力を入れており、学芸発表会とは別に、図工、音楽とも結びつきの深い文化交流会を行っています。

造形教育の面では、造形教育に情熱を注いでこられた先生方のこれまでの実践が生きており、実践校のひとつとして評価されております。毎年全校的に取り組んでいるもののひとつにテーマ展があります。これは決められたテーマをもとに共同製作として、立体、平面の作品をつくり、卒業式、入学式のときにステージ



や廊下、体育館壁面を飾るものです。卒業記念制作にも力を入れており、現在は6年計画で体育館の窓をスタンドグラスで飾ることに取り組んでいます。また日常の授業の中から生まれたよい作品を公募展に出品し、市内はもとより、全道、全国展にもすぐれた成績をあげています。全道小中学生立体造形展においても2回、地区優秀学校賞をいただきました。

今後子どもたちの表現力を高めるとともに、心豊かな子どもたちをと願いながら実践を深めていきたいと考えております。

(函館市美術研究会研究部長 山谷 礼司)

実践者紹介

ひろがりを求める実践家

渡辺 貞之 先生 (妹背牛町立妹背牛小学校)

職場と共にしている同僚からみた実践家渡辺先生を紹介します。

渡辺先生の勤務校は函館本線の沿線にある農村の学校で、年々学級減となり現在十三学級規模になっています。白い三階建の校舎に入ると、スタンド風の欄間玄関隣りには子ども美術館。広い中央廊下の天井には大きくてカラフルなグライダーとベニヤ板四枚ぐらいの大きな絵だこ。壁のあちこちには大きな壁画と子ども達の作品でいっぱいです。また、全校生徒の自転車デッサン展、花の絵展、写生展、版画展、参考作品展と数多くの展覧会も開いています。これらは作品展を折り込んだ七夕まつりと妹背っ子まつりとともに造形教育に特色のある妹背牛小学校の姿となっています。

これらの企画は全て渡辺先生です。先生は全国教研など各種の研究会で深めた力をもとにして次々と学年毎の「指導の手引き」を示し、全校教師が一致してとりくめるようにしていく実践力は、管内的にも高く評価されています。



(河原で子どもたちと粘土とり)

地域のサークル活動の指導者であり、一線美、全道展など芸術活動でも大活躍。12キロメートルある自宅から自転車通勤し朝野球の投手として鍛えた体と美術教育への情熱がエネルギーとなって活躍される渡辺先生に一層期待を寄せている一人です。

(文・妹背牛小学校 手島 トモ子)

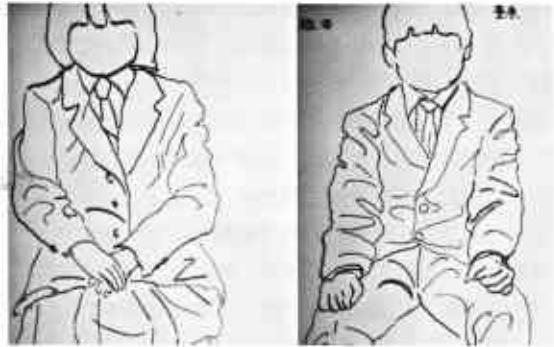
ピグマスケッチペンを使って

図工・美術の授業の中でよくクロッキーをさせることがある。これには、いろいろな目的やねらいがあり人物画をさせる前に、生活画をかかせる時に、版画をやる時、それぞれの題材に合わせてポーズを取らせることが多いと思う。また、授業の始めに、導入として、あるいは練習としてか、毎週、欠かさずクロッキーをさせている場合もあると思う。

いずれにしてもクロッキーは素描の一種であり、つまり、フランス語でデッサン、英語でドローイングである。それ自身完成した作品として描かせるものではないけれども、生徒の心眼に映ったイメージをそのままに描いたものとして一枚の作品としての価値はあると思う。ですから技術修練のための習作や、訓練、練習の目的のみとしてクロッキーを生徒にさせることはあまり賛成できない。

特に線の使い方や線の強弱などをうるさく云ったり参考作品やよい生徒の作品を提示して指導するのは好ましくないように思える。その子、その子が持っている線で表現されることが生き生きしたクロッキーになるのではないだろうか。こまぎれでたどたどしい線も

よし、ぶっきらぼうな線もよし、単純な線もよからう、ぐにやぐにやな線で描かれてもよいだろう。線を何本も重ねて使い、おおまかな形を求めるもの、印象を強調するもの、数少ない線で全体像をとらえようとするもの、全体の中から必要な要素だけを抜き出すものな



札幌市立八軒東中 2年 豊原 清佳

ど目的に合わせて使えるようになればよいと思う。

その点、ピグマスケッチペンは線が自由自在である。画面が大きければ太い線で、小さい画面であれば細い先を使う。それが一本のペン先でできるから楽しい。また、一つの作品の中でも太い所、細いところがあり線の強弱が自然に出て立体感や空間が表わされる。

生徒の話聞いてもいろいろな線がかけてうれしいと云う。先がかたいので力を入れてかける。インキがきれずにいつまでもかける。

ゆったりした楽しい心持ちの線はそれなりによい。また、緊張感のある線はなおよい。

授業中の静寂な緊迫感自然に作品にも表れる。そのためできるだけ条件をしばってクロッキーをさせる。 1) 消せません。

2) 紙いっぱいにかこう。 3) 5分間です。そして、できばえや仕上がりにこだわらずクロッキーやスケッチをする習慣を身につけさせたいものです。

〈文・札幌・八軒東中 安原 正〉



ピグマ スケッチペン(くろ)

略号: SUK-スケッチ 小売価格100円

- 1本で太い線、細い線が描けます。
- 水にエジまないで、水彩絵具の彩色も美しく仕上がります。
- 1本でハッチ画用紙の作品が約30枚描けます。
- 顔料インキ使用ですので色あせしません。



株式会社 **サクラゴリバス** 札幌営業所

札幌市中央区南4条西13丁目
☎064 TEL (563) 5161(代)

あ と が き

71号をおとどけいたしました。原稿をお寄せくださった先生方に厚くお礼申し上げます。函館大会のご成功を祈ります。

吉田 倭雄 (新川中央小) 富田 泰 (栄緑小) 村谷 利一 (北栄中)
安原 正 (八軒東中) 伊藤 英世 (澄川西小)